AGRI WORK POINT
アグリ ワーク ポイント

茶 茶樹の年間生育リズム

茶指導販売課　福手 裕三

生長周期と環境要因

お茶は数十年にわたって生長を続けますが、1年の中でも生長の周期があります。茶樹の生育は、環境に左右されますが、基本的には気温変化との関連で説明できるといわれています。

春先になり、日平均気温が10℃を上回るようになると、冬季に休眠していた芽が萌芽に向けて動き出し、3月下旬～4月中旬に萌芽します。萌芽した芽は、春から秋の間に3～4回の周期的な生育を繰り返し、日平均気温が15℃を下回ると生育を停止します。

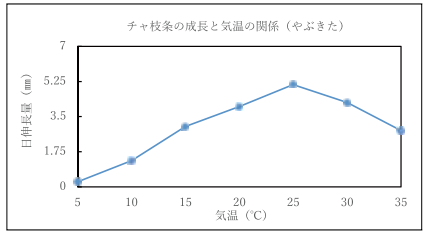
※3月9日10・31℃、10月24日14・93℃
2020年JAおおいがわECセンサーデータ参照

新芽生育と気温

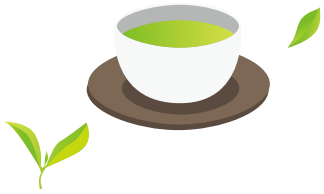
日本国内における主要な茶栽培地は年平均気温が12～18℃あり、冬季の最低気温の平均は-5～-6℃の範囲にあると言われています。茶の萌芽予測には積算気温が大きく影響されるため、摘採期予測にも積算気温が広く用いられています。チャ枝条の成長と気温の関係（図1）を確認してみると、気温5℃では新芽生長は、ほぼ起こりませんが、10℃になると新芽の生長が始まり、25℃ぐらいになると生長速度は最大となります。その後、30℃を超えると生長速度は低下しはじめることが分かります。

茶樹の樹齢と改植時期

茶樹の経済樹齢は、一般的に35年程度とされていますが、実際には地上部の更新（剪枝）処理により樹勢が維持され、35年以上経過しても生産力が維持されている茶園もあります。しかし、樹齢の経過とともに樹が古くなり、枝が細く、さらに葉が小さい茶園については、改植を検討してもいいかもしれません。改植時には、地下部の状態を再確認し、土壌の物理性を改善することで、より生産性の高い茶園作りにつなげましょう。



（図1）茶大百科Ⅱ技術資料より抜粋



茶 5JA共通の茶専用肥料のご紹介

購買推進課　岡谷 武秀

5JA共通肥料とは

茶産地であるJAおおいがわとJAハイナン、JA掛川市、JA遠州夢咲、JA遠州中央の5つのJAが連携し、組合員の農業所得とサービスの向上を目的に作った、茶専用の低価格肥料を販売しています。配合肥料2種類と、化成肥料1種類があり、JAおおいがわの「令和3年度茶園施肥設計」に組み込まれています。ご自身の施肥設計に、組み入れてはいかがでしょう？

配合肥料

瀬戸尾 高貴（藤枝）　池田 昌行（岡部）

●5JA共通さかな茶配合
20kg　1590円（税込）
N-P-K-Mg
11-3-2-2
施肥時期：春肥・秋肥
80kg／10a
魚粕30%をメインに、有機物をバランス良く配合した肥料です。茶樹の生育に欠かせないちっ素成分が高く、く溶性の苦土分も含み、持続的な葉色改善が期待できます。

金子 達格（島田）　山中 爽平（初倉）

●5JA共通LC配合
20kg　1331円（税込）
N-P-K
11-1.5-2
使用時期：オールシーズン
80～100kg／10a
植物性と動物性有機物をバランスよく組み合わせ、価格を低コストに抑えた配合肥料です。茶樹の生育に欠かせないちっ素成分を高く含み、施肥時期を選ばないため、幅広い期間で使用できます。

化成肥料

●くみあい苦土入り茶化成722
20kg　1496円（税込）
N-P-K-Mg　17-2-2-2
使用時期：芽出し、2茶前・2茶後
60kg／10a
5JAが連携したことで、低価格の化成肥料が実現しました。お茶の栽培に必要なちっ素成分を17%含み、葉色向上と光合成を促進する苦土成分を2%含んだ化成肥料です。

山本 康説（川根）　鈴木 崇也（金谷）